

浦尻川水系河川整備基本方針

平成 15 年 4 月

宮 崎 県

1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

[流域の概要]

浦尻川は、延岡市の北東に位置し、その源を北川町との境に沿って南北に連なる標高約300mの山地に発し、水田が広がる浦城町の平野部を經由しながら、折川内川を集め、やがて浦尻湾に注ぐ、流域面積10.11km²、流路延長約2.3kmの二級河川です。

[流域の気候]

浦尻川が位置している延岡市の年平均気温は約16.7℃、年平均降水量は約2,400mmであり、近年では平成13年10月に日降水量360mmを越す豪雨を記録しています。

[流域の地形]

浦尻川流域の約95%が山地からなります。その他5%が宅地・耕地となっています。上流域は標高約300m程度の山地からなり、中流域は狭小な平地部が形成され水田等に利用されており、下流域は集落が発達した水田地帯となっています。

[河川景観]

上流域は河川の両岸に山地が迫り、山地河川の様相を呈します。中流域は山あい到低地が水田として利用され、その中を浦尻川が蛇行して流れています。下流域では平野部に広がる水田と民家が点在する田園風景が形成されています。

[自然環境]

浦尻川の上流域は、アラカシなどの常緑広葉樹林とスギ・ヒノキなどの針葉樹林から混成されています。中流域は、浦尻川、折川内川共に合流点より上流で、河道全面にヨシ群落広がっています。下流では防潮林としてタブ林が広がっており、また点在する河原荒地にはハマサジやハマゼリなどの特定種が確認されています。魚類については折川内川合流点付近では環境省が指定する絶滅危惧種 類であるメダカをはじめウグイ、ギンブナが生息しています。

[社会環境]

浦尻川が流れる延岡市浦城町は河口から防潮林までの右岸側堤内地には過去に塩田があり、市の文化財に指定されています。また、河口付近の丘陵には浦城水軍の城跡が史跡として残されています。

流域内には浦城小学校、浦城保育園、浦城中学校、浦城公民館などがあり、浦城小学校と浦城公民館は災害時には近隣住民の避難場所となっています。

[利水の状況]

浦尻川の利水については、沿川の水田などの灌漑用水に利用されています。

[水質]

水質については、河口から約 500m 上流の飛川橋上流地点において観測されています。近年 9 ヶ年（平成 5 年～平成 13 年）BOD（75%）の平均値で 0.7mg/l となっており、当該河川においては環境基準値の類型指定はなされていないものの、AA 類型に相当する良好な水質であるといえます。

[近年の被災状況と治水事業の沿革]

浦尻川流域は、これまで頻繁に浸水被害を受けてきましたが、近年では平成 13 年 10 月 16 日の豪雨により、家屋 50 戸の浸水被害に見舞われました。

これまでの改修事業は、昭和 46 年～昭和 53 年に浦尻川の上流域において局部改良事業、昭和 49 年～昭和 51 年に折川内川において災害関連事業による改修工事が行われています。

(2) 河川整備の基本方針

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川の現状並びに河川環境の保全を勘案し、地域の発展に係る諸計画との整合を図りながら、「治水」、「利水」、「環境」との調和のとれた計画に基づき整備を図っていくものとします。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

災害の発生の防止又は軽減に関しては、流域の現状、資産の集積度、県内バランス等を勘案し、概ね 30 年に 1 回程度の降雨により発生する洪水に対し、河道の拡幅等を行い、洪水の安全な流下を図ります。

また、計画規模を上回る洪水氾濫を含め整備途上段階においても、洪水時の被害を最小限に抑えるため、情報伝達体制及び警戒避難体制の整備、土地利用計画との調整について、関係機関や地域住民等と連携して推進します。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、関係機関と調整を行い、水資源の合理的かつ有効な利用の促進を図るとともに、現在の水量・水質をはじめとする良好な水環境の維持・保全に努めます。

さらに、渇水時には、関係機関、水利権者等と調整を図り、現況の水環境の維持に努めます。

3) 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、河川景観を活かしつつ、動植物の多様な生息生育環境の保全・再生を目指した整備を行います。

4) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の保全が図れるように、適切に管理します。

また、河川の維持管理は地域住民との連携が重要であることから、河川に関する情報を地域住民に広く提供するとともに、河川愛護等の活動を支援します。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

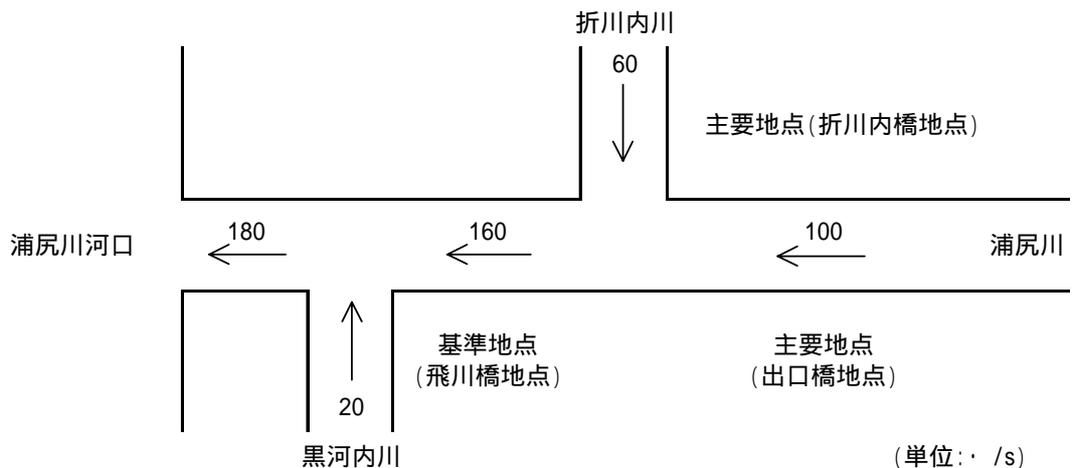
基本高水のピーク流量は、概ね 30 年に 1 回程度発生する規模の洪水に対処するために、基準地点飛川橋地点において $160\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道によりすべて流下させるものとします。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量 (m^3/s)	洪水調節施設による調節流量 (m^3/s)	河道への配分流量 (m^3/s)
浦尻川	飛川橋	160	-	160

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、基準地点である飛川橋地点で $160\text{m}^3/\text{s}$ とし、さらに主要地点である出口橋で $100\text{m}^3/\text{s}$ 、折川内橋で $60\text{m}^3/\text{s}$ とします。



浦尻川計画高水流量図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次のとおりとします。

主要な地点における計画高水位、川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)	摘要
浦 尻 川	とびかわはし 飛川橋地点	0.5	+ 2.74	約 40	基準地点
浦 尻 川	出 口 橋	0.7	+ 3.67	約 25	主要地点
折川内川	折 川 内 橋	1.0	+ 5.38	約 20	主要地点

注) T . P . : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

河川水の利用については、農業用水の取水が行われているとともに、動植物等の豊かな自然を育む源となっています。

浦尻川の流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、河川の適正な利用、生物の多様な生息・生育環境、水質保全等の観点から、調査検討を行います。

(参考図) 浦尻川水系図

